

## 第2回松本市アルプス公園魅力向上検討会議

令和4年11月25日（金）14:00~16:30

大会議室

### 【座長挨拶】

皆様こんにちは。こんないい天気、多分皆様におかれましては、アルプス公園に出向きたくなるような、多分そんな日じゃないかなと思いますが、今日は会議室の中ということでご了承くださいませ。

前回、皆様の思いを色々出していただいたかと思うのですが、多分まだ出し切れていないかなってところも感じられました。今日はより具体的に、たくさんのご意見を出していただけるように、ワークショップ形式で開催したいと思いますので、自由闊達な、柔軟なアイデアをたくさんお出しいただければと思います。

本日もよろしくお願いいたします。

### 【事務局説明：前回会議について】

事務局総合戦略室係長の石井でございます。よろしくお願いいたします。

それでは第1回検討会議の振り返り資料について、事務局から説明させていただきます。

私からは、1ページから5ページまでを説明させていただきます。1ページと2ページの資料ですが、右上に資料2-1と振ってあります。こちらは、前回会議で出された主な意見を整理した資料となります。詳細までは説明しませんが、ご覧をいただければと思います。

左側から発言者、主な意見、第2回に向けた宿題ということで整理しています。一番右側の方向性に関わるキーワードは、発言の中から抽出して載せてあります。

3ページ目は、方向性に関わるキーワードを大きく6つに整理した資料となります。

6つの整理ですが、1つ目は誰がという視点でご発言があったものをまとめています。

子どもの関係についてのご発言が多かったかと思っております。その右隣が魅力に関するキーワードで、眺望、ロケーション、自然、生物多様性についてご発言がありました。

更にその右が、何々できる場所という視点でご発言があったものを整理しています。自然体験、野外体験、自然を通した遊び、アウトドア、気軽に訪れることができる、食事ができる、お弁当を広げられる等々ございました。

それから左下は、具体的な希望としてご発言があったものを整理しています。ピクニック

広場への回遊ルートの整備、眺望の確保、展望広場の復活再整備、維持管理の充実など、ご発言がされていたかと思えます。

その右は新たな視点ということで、開園から50年が経過することもあり、様々なご意見があったかと思えます。

総合学習での活用、教育委員会との連携というキーワードが出されていましたが、アウトドアの聖地、若者が興味を持ってくれる、移住定住のきっかけになる場所という視点でのご発言もありました。

右下の欄は、どのような公園になっていったらいいかという視点でご発言があったものを整理しています。

こちらの資料は、本日のワークショップの際に、参考にさせていただければと思えます。

4ページ目は、方向性に関わるキーワードで出されていた用語のうち、検討会議の中で共通認識を持っておいたほうが、議論が深まるとされる用語について整理しています。

まず、自然体験活動は、委員の皆様のご発言の中でも多く出ていた用語かと思えます。こちらは、中教審分科会内「青少年の体験活動の推進の在り方に関する部会」における第1分科会の公開資料に、用語の定義がされていたので、一部抜粋したものを載せています。

それから、アウトドアレジャーについても同部会内での定義を載せています。こちらは余暇活動として、より生活を充実させるための時間の使い方、自由裁量の時間という意味で使われる用語です。用語の共通認識を持って議論していただくと、議論が深まるかと思えます。

最後の黒丸は総合的な学習の時間です。こちらにも複数の委員さんからご発言があった用語でしたので載せてあります。参考にさせていただければと思えます。

5ページ目は、前回の検討会議で、須澤委員さんから、国営アルプスあづみの公園というキーワードが出ていましたので、アルプス公園との比較資料を用意しました。

国営アルプスあづみの公園ですが、国営公園であり、入園は有料。広大な敷地面積と充実した屋内外施設を有していて、年間通じてイベントがあり、スタッフが常駐している。それに対してアルプス公園ですが、都市公園であり、入園は無料。国営公園と比較すると歩いて回れるコンパクトな敷地であり、市街地から近い場所にありながら自然豊かで、アルプスを望む眺望があるといった特徴があります。

国と市という規模の違いもありますので、そこを目指すのか、差別化していくのかといった視点も持ちながら、検討を深めていただければと思えます。以上になります。

【事務局説明：委員からの要望資料について】

第1回検討会議の中で、要望として出されていた関連資料をまとめてございますので、ご説明をさせていただきます。資料は6ページから資料3-1をご覧になっていただきまして、アルプス公園整備の開設理念に巡る経過ということでまとめさせていただいています。私どもの現存する資料の中から、経過をもとに市の基本理念ということでまとめております。

まず昭和44年ですけれども、市が県から取得後、観光開発審議会に諮りまして市民を主体とした憩いの場とすると、中間答申されております。その中でまず四角く囲った青年会議所の方から子どものための施設とするということが要望がされております。

請願をされた中で、その下の四角、市議会と記してはありますが、全階層の市民が分け隔てない、素朴な憩いの場とするとともに、特に子どもたちが安心して学び、かつ、一家団らんの場合とすべきということの報告がされています。

そこで市の方では、このアルプス公園の事業について市民の慰楽を図るためということで、お示しをさせていただきます。

またこの将来構想として、城山公園、鳥居山、アルプス公園、芥子坊主山を結ぶレクリエーション地帯という構想をこの当時持っていたことを経過としてまとめてございます。

続きまして、資料2の7ページをお開きいただきまして、都市公園の種類でございます。市が都市公園として所管開設している公園の分類でございますけれども、都市公園はその目的と規模面積要件ですけれども、これで分けてございます。アルプス公園は総合公園として整備をさせていただきます。

続きまして8ページ、資料3-3をご覧になっていただきまして、アルプス公園の制限行為とエリアということで、こちらについては公園内火気の使用についてエリアごと分けてございます。

これは松本市都市公園条例に基づいておりまして、公園内は直火禁止としております。しかし、さくらの森、家族広場、森の里広場の一部ですけれども、こちらについてはコンロなどの使用について、火気使用を認めてございます。

あと宿泊についてということですが、こちらは条例上、野営をすることを禁じています。

また、危険な行為の禁止などお示しをしています。参考には今、都市公園条例の一部を抜粋しておりますのでご覧になっていただければと思います。

続きまして9ページ、資料3-4をご覧になっていただければと思います。山と自然博物館の概要についてご説明いたします。こちらの施設は、教育委員会の所管でございまして、昭和50年に松本市アルプス山岳館が建設されまして、ちょうどアルプス公園拡張整備事業、平成19年に完成していますけれども、この事業に着手するとともにその山岳館の老朽化が

ら、新たに新設をするということになって計画をしてございます。それと同時に国土交通省の松本砂防事務所から姫川の情報監視中継所ということで活用の協議がされて、国と市が共同で整備をしたものでございます。

資料2の施設概要(4)では、松本市及び国交省の施設区分として1階から5階、地下含めて5階までございますけれども、それぞれ区分をお示ししてございます。ただし、国と施設を共有しているということで、単独で松本市がこの施設の改築などを行うことは難しいという事は聞いております。

続きまして10ページの3-5をご覧ください。アルプス公園の入場者数ということでお示しをしております。先ほどご説明した山と自然博物館につきましては、3カ年の無料入場者数、有料入場者数と分けてございますけれども、無料については、いわゆる展示台が3階にございますので、そちらをご利用された方々が主となります。有料については1、2階展示室を有料で入られたということでございます。

それからその右側、小鳥と小動物の森については、概ね10万人から9万人で、この3カ年は推移しています。ドリームコースターにつきましては、5万人前後ということで利用されています。以上が前回会議で要望された資料等でございます。説明は以上となります。

#### 【ワークショップについての説明】

(発言者：原)

今日の本題、意見交換のワークショップに入りたいと思うのですが。

冒頭の挨拶でも申し上げたように、前回、皆様からも色々な想いが出されたかなと思うのですが、まだ出し切られてないかなというふうにも感じましたし、もっと議論を深めていきたい部分もあったかと思っておりますので、今回は、人数を半分にして意見を出しやすい形のワークショップ形式で行いたいと思います。

皆さん部屋に入る途中でご覧になられたと思いますが、2つテーブルがあり、南側に限定してございますけど、大きな地図をご用意していただいております。

話し合いのテーマですけれども、今日お配りしている資料の一番後ろに書かれています。公園の魅力。いいところ、好きなところ、前回もたくさん出ていたと思うのですが、そういうところを改めて出していただきたいのと、皆様が感じている公園の課題。それからこんなことができたらいいなというようなご希望。また、これができるといいなということ、やってみたいこと、これをしたいというような、一見実現不可能と思われるようなものでもいいと思います。何か妄想に近いものでもいいのではないかと、その中で面白いアイデアが出

てきたりもするので。ブレインストーミングのような形で、とにかくたくさん出して頂けたらなと思っておりますので、お願いいたします。

グループ分けですけれども、単純にここから2チームに分けて、こちらの4名の方はあちらって感じで二つのグループに分かれます。意見交換の時間を3クールに分けて、第1クールの時間を30分とします。最初の10分は、ポストイットが用意されているのでそこにもう短く、たくさん書いていただきます。残り20分で地図上に貼っていただきながら、その意見を皆様に発表していただきます。

第2クールは、グループの中から2名が別のグループに移動していただきます。新たなメンバーが、もといいたグループでどんな意見が出ていたかを共有していただきながら、もちろん同じ意見でもいいですし、新たな意見を出していただくという形になります。そこまでで一旦、5分間の休憩をいれます。

再開後15分間で、皆さんで整理をしていただいた後、それぞれのグループの委員さんから、発表をしていただけたらなというふうに思います。

高山委員さんや小川原委員さんは、自然活用実行会議にも参加いただいている、いずれは北も南もない、アルプス公園ということでお話をする場も設けられたらと思いますが、今日は南側開園部に限定して、ご意見を出していただきたいと思います。

それから、ワークショップの約束事を皆様に知っていただきましょうということで資料をつけています。慣れていない方だと、長く話してしまったり、気持ちが乗ってくると人のご意見を遮ってお話ししてしまったりするのですが、前提として、なるべく簡潔に短くたくさん出すということを踏まえた上で、お互いの話をよく最後まで聞きましょうということです。

それから、皆さんの意見を否定しない、まずは肯定しましょうということですね。

あとは、楽しい雰囲気にとんとんしていただければなと思いますので、面白いアイデアが出たら、ぜひそれに便乗する形で、それだったらこれがいいねという感じでご意見を出していただけたらと思います。

できれば今日は前向きな意見が出ればいいと思いますので、何かできない理由を人間って探しちゃうのですが、どうやったらできるかなというような思考で、お話をいただければと思います。

あとは慣れてないということで、躊躇してしまう方もいらっしゃるかもしれませんが、ぜひ積極的なご意見をということで、全員参加の作業にできればなと思います。

## 【ワークショップまとめ】

（発言者：原座長）

皆さんお疲れ様でした。色々な意見が出たようでだいぶ盛り上がっていたのではないかなと思います。ありがとうございます。それぞれのチームからお1人にどんなお話が出たのかを簡単にお話いただければなと思います。市川さんチームからは、佐藤委員さん、どうぞお願いいたします。

（発言者：佐藤委員）

僕たちのチームでは、大きく分けて4つのことについて話し合いました。まず1つ目が、山と自然博物館の有効な利活用で、もっと博物館で何をやっているのかをPRしたり、企画展を行ったり、内と外の境界をなくすような取り組みができたらいいのかなというふうに感じています。

2つ目として水辺広場の利用や、名前がついているものの認知されていないエリアをどのように利活用していくかということを考えました。特に水辺広場は、水量を増やし、子どもが水で遊べることをもっと周知できたらいいというふうに話がまとまりました。

もう1つが、ステージが色々な広場にあるのですが、有効に使われていないという状況があるので、イベント等に利用するなど、地域の方々の交流の場になったらいいのではないかなという話が出ました。

あとは、未整備地からピクニック広場へ遊歩道を整備したらどうかという意見が出ました。既に既存の遊歩道からアクセスできるエリアには人がたくさんいるのですが、そこから少し外れた、それこそピクニック広場のようなエリアは行きづらい。アクセスしやすく、かつ、自然観察にも利用できるような遊歩道が、南側入口からピクニック広場にかけて整備できたらいいのではないかなという話が出ました。

以上の4つ、いずれも実際に行っていくためには、指定管理者だけではやり切れない部分もあるので、ボランティアの方などに積極的に関わって進めていければという話になりました。関わる人としては、高齢者の方の生きがいの場になったり、子どもたちが総合学習の時間で利用できる学びの場になったり、高齢者と子どもたちの世代間交流を通じて、ボランティアがより活性化していったらいいのではないかと考えます。多様な世代が公園を通して関わり、全ての世代が利用できる公園になったら、より良いアルプス公園になるのではないかなという話にまとまりました。Bチームからは以上です。

(発言者：林委員)

私たちのAグループですけれども、未整備地に関してなんですけど最高のロケーションであると。やはり整備が必要なのではないかという意見が出ております。

展望広場に関しては、未整備地とちょっと分けて考える必要もあるのかなというふうに考えております。飲食ができる場所としてもいいのではないかと、また、イベント、飲食などの機会を提供できる場所が欲しいというような意見が出ております。

あと、音楽広場があるのですが、こちらに関しては名前ばかりであまり活用されていない状況があるということで、こちらについても活用方法なども含めて検討が必要ではないかという意見が出ております。もちろんアルプス公園の設立経緯も含めると、子どもたちが楽しむことができ、自然体験などができる場所であるのですが、大人も使えるための公園としても活用することも大事なのかなという意見が出ております。

また未整備地、またはピクニック広場等ですね。日帰りのキャンプですとか、また火を使いたい、アウトドアを楽しみたいという意見も出ております。これに関しては、皆さんの中にも色々なご意見があると思いますので、しっかりと議論をしていって、どうしたらできるだろうというふうに考えながら、いろんな問題等もあるかと思いますが、松本を代表する総合公園として皆さんと一緒に魅力のある公園にしていけるように、良い意見をさらに出し合っていければと思います。今回は具体的な意見が少し出てきましたので、さらに皆さんと一緒に詰めていければいいのかなというふうに思います。そんなところでございます。

(発言者：原座長)

少し言い足りないよということがもしあれば。大丈夫ですかね。

全体を通して皆さんの方からも何かワクワクしてきましたねっていう、あの声が聞けたように、現地をイメージしながら、皆さんがやりたいっていうことがどんどん出てくると楽しくなりますよね。

ただ、もうそれなりにいろいろな設備や施設がある中で、足りないものは、様々な体験ができるための企画とか、もちろんそれには人が足りないっていうご意見もありました。今もTOY BOXさんだけでは難しいところを人の参画でというお話がありましたが、人が足りないところに予算をかければというよりは、本当にみんなで作って上げていくような公園の在り方。市の予算化の上で全部整備してしまうっていうよりは、何かそのプロセスを皆さんで楽しむっていうのがあると、より市民のための公園になるじゃないかなというふうにも考えたりするので、お金がないのであれば、知恵を出し合うなど、色々なやり方があるじゃ

ないかと思いました。

本当にちょっと楽しくなってきましたね。ありがとうございます。

では、こういう場を、広く市民の方たちにも同じようなワークショップをしてご意見をいただきたいということで、1月にワークショップを開催するスケジュールをお示しさせていただいています。

最終的には、私たちこの検討会議のメンバーで、提言をしていかなければいけないと思いますが、市民の皆さんから広く意見を聞くということは市議会からも要望されていますので、様々な意見を出していただく機会になればと考えています。今回、子どものために、あるいは子どもを中心にしながらも、多様な世代、全ての世代が利用できるというご意見がありました。

総勢2、30人で同じようなワークショップ形式でしたいのですが、皆様にお伺いしたいことは、もちろんやり方をどうするのかということも頂戴できればありがたいのですが、どんな属性といますか、どんな方々に意見を出していただきたいか。市民といっても広く公募をした場合、ちょっと偏るかなというふうにも思いますし、学校関係でもいいのかとも思いますが、どんな方たちにご参画いただけると、より委員の皆様が参考にしたい意見が聞けるのかなという、そんな観点でご意見いただけたらと思います。

(林委員)

こちらから選定をする方法か。

(原座長)

公募するやり方もあるし、お声掛けする形でもいいですよ。

(林委員)

P T A関係だとか、子どもとか、地元の方とか、いくつかキーワードが出ていますので、そこに関連する方々に来ていただければどうか。

(高山委員)

どうしたらいいか。具体的に思っているのは、公募するとした場合は、もともと意見を持っている人は積極的に発言したりしますが、そうではない人の方が多いのでその意見も大切だと思います。そのためには事務局でヒアリングに行っていただくとか、アンケートをとる



手法もあるでしょうが、それでは事務局が大変だと思う。今回は、ワークショップ形式でやるということであれば、そういう方たちに参加いただく形で開催できるのであれば、それはそれで良いと思う。

(原座長)

1月にワークショップをやって、それとは別の機会に検討会議の進捗を共有するフォーラムの開催を予定しています。

(高山委員)

例えばですけど、この会議で提言をしていきますが、多分それは最終決定ではなくて、その後も色々な人の意見を聞きながら修正をしていくものと思います。

魅力を感じてもらえるような提言を検討していることを多くの市民の方に知ってもらおう。ワークショップの開催は、その情報発信にもなりますよね。

(深澤委員)

今回提出された資料の中で、アルプス公園整備の解説理念を巡る経過に関する内容を拝見させて頂きました。

公園が開設されるまでの経過をはじめ、火気使用や危険な行為の禁止など、先ずこういった公園の在り方、コンセプトを認識し、広く市民の皆さんが理解、勉強ができることを望むためにもこのようにまとめて頂いた資料があつて良かったと思います。

ところで次回の検討会議では、北側拡張部の自然活用を検討している実行会議の内容もお知らせしてくれるそうですが、やはり北側拡張部も合わせた公園の整備を検討すべきかと思っています。

皆さんご存かと思いますが、以前、川にホタルを見ることができました。また全国的にも珍しいサワガニも生息しており、アルプス公園は花や木々、昆虫や野鳥など自然環境に恵まれた貴重な場所でもあります。これらの貴重な環境が現在どうなっているか多くの市民に知ってもらうためにも改めて調査が必要かと思っています。

(事務局)

ワークショップをどのような形で開催するかということで、原座長から説明がありました。ワークショップは、本日使用したのと同じ資料、同じテーマで、多くの市民の皆様からもご意見をいただけると、皆さんが次回の会議で集まったときに、更に議論が深まるのか

なと思っています。参加いただく対象、参加者については、本日、ご意見いろいろございましたので、原座長と市川座長代理とご相談させていただいて、座長、座長代理の方から、こんな形で考えていますということをご共有させていただきます。少し1月まで時間がありますので、委員の皆様から参加いただく属性などご意見がありましたら、ご相談して変えていくというような形でいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(発言者：原座長)

はい。これで意見交換は終わりにしたいと思いますが、意見のある方は。では、はい。どうぞ。

(発言者：小川原委員)

時間の都合もあると思いますが、もう一つ提案したいと思っております。魅力向上、利活用の提案ということでメモをつくってききましたので、お手元にある方もいると思っておりますけれども。北側拡張部の自然活用について検討した検討会議では、遊んで、学んで、みんなで里山づくりというキャッチフレーズをつくりました。

検討会議の存在、様々な考え方を進めていくためにも、市民や関係者に知らしめるためにも、キャッチフレーズは必要じゃないか、また、広く愛されるためにもキャッチフレーズは必要というふうに理解しております。

そこで、この会議の中で公園南側にもキャッチフレーズを提案して、何かあるときに書類の中にでも提示していければいいかなと、こんなふうに思っております。

例えば、勝手に考えましたが、遊んで、学んで、みんなで体力づくりというような趣旨をうたうのもいいかなとは思いますが、これは個人的な意見でありますので、次回までに、みんなで考えてですね、それも一つ課題にしてほしいとこのように思います。以上です。

(事務局)

皆さん、本日は大変、お疲れさまでした。

だいぶ時間も過ぎた中で様々なご意見をいただきましてありがとうございました。それではちょっと私の方から少し連絡をさせていただきたいと思っております。先ほど出てきました自然活用実行会議という、もう一つの市民会議を開催していますが、その中で北側拡張部の名称募集をさせていただいています。周りの皆様にお声掛けいただきますよう、ご協力をお願いします。

それでは前澤建設部長から最後に一言いただければと思います。

**【前澤建設部長挨拶】**

今日は長時間にわたり、ご議論をいただきましてありがとうございました。また具体的な話も少しずつ出てきておりますので、ぜひ、いい方向にしっかりとまとめていながらですね、魅力のあるアルプス公園にしていきたいというふうに思いますので、また引き続きよろしく願いいたします。次は、市民ワークショップという話がありますが、事務局からですね、座長、それから座長代理には、ご相談させていただきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いをいたします。

本日は、どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。